

園だより 9月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。

詩編 25 編 4 節

暑い暑い猛暑がまだ続いています。1か月以上の夏休み、いかがお過ごしでしたでしょうか。夏期保育が始まって元気な子どもたちの声が幼稚園に戻ってきました。久しぶりでドキドキしている様子の子どもたち、少しお兄さん、お姉さんの顔つきになった子どもたち、身長が伸びて「おはよう」の挨拶の目線の位置が変わった子どもたち。それぞれの子どもたちの「今」と出会いました。少しずつですが、9月の声を聞いたら暑さも遠のき過ごしやすい日々が戻ってくることでしょう。子どもたちのエネルギーを十分に輝かせる2学期をスタートしたいと願います。

夏休みは保育者たちにとって学びのときでもありました。それぞれ色々な研修に参加し、今の世の中に必要な保育、大切にしなければならない保育について学ばせていただきました。そんな中の一つ『子育て支援を考える～子どもの育ちを支える「親の育ち」をどうささえるか～』の表題で青山学院大学教育人間科学部心理学科教授 坂上 裕子先生の講演をお聴きしました。常々考えていること、思い巡らせていることをより深く理解することができ確信が持てました。坂上先生はこのようなお話されていました。「昨今では特に、子育ての現場にも経済至上主義が持ち込まれ、親の余裕のなさも相まって、大人が求める資質を備えた子どもを、より早く、効率的に育てることが望まれているくらいすらある。しかし、子どもの発達のプロセスそのものは、時代によって大きく変わるわけではない。子どもは、さまざまな物や他者との関わりの中で、一つひとつのプロセスを踏み、行きつ戻りつしながら、自身の人生、発達の主人公になっていく。保育や子育ての根幹は、そのプロセスに寄り添い、支えることにあると言っても過言ではなく、そのためには、子どもと経験をともにし、子どもがどのような発達の時期にあるのかを子どもの視点から捉えることや、子どもの発達に応じて大人の側も関わり方を変えていくことなどが求められる。そうして、子どもと気持ちが通じ合い、子どもについての理解が深まることで、親は親としての喜びや成長を実感できるのだといえよう。」

今年度も入園説明会を6月から行っています。説明会の最後に、対面でもウェブでもお伝えしていることがあります。「人間は成長し続けます。子どもたちは子どもとして、保育者たちは保育者として保護者の方々も保護者として共に育つ豊かな幼稚園生活であることを願います」の言葉です。先生のお話を聞きながら、この思いが浮かびました。支援とは助けること・支えること、助けられること・支えられることと理解しがちですが、本質は、それぞれが人として一人ひとりが成長し続けられるような環境（コミュニティ）でお互いに豊かなときを過ごし成長し続けることなのです。これから始まる2学期も、豊かなときの中で子どもたちが自らの想いを発揮し一つひとつのプロセスを踏み、行きつ戻りつしながら、その子らしい育みがなされることを願います。

たくさんの行事が行われる2学期です。保護者の皆様にはご理解とご協力をいただきながら、子どもたちの成長を見守り、共に喜びを分かち合い、成長し合えることを願います。よろしくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子